

欧州環境機関が土地リサイクル報告書を発表

◆ 欧州環境機関が、既開発地の再利用の有用性を指摘

欧州連合（EU）の専門機関の1つ欧州環境機関（EEA）は2016年12月、「欧州の土地リサイクル（Land recycling in Europe）」という報告書を発表した。土地リサイクルとは、かつて開発された土地（Brownfield）を再利用することを意味する。たとえば工場跡地の汚染土壌を浄化して商業地や住宅用地に転換する例や、舗装を剥がし緑地に戻すといった事例が挙げられる。

欧州の土地リサイクルは微増傾向ではあるが、開発地全体に占める割合は平均で3%弱と、新たに開拓される土地に比べわずかであることが、衛星データから示されている。（調査対象は欧州地域39カ国：モンテネグロ15.64%、ルクセンブルク11.91、アイスランド5.51、イギリス5.06、ドイツ3.79、フランス0.93、等）

土地は限りある資源であるのはもちろんのこと、重要な「エコシステムサービス」（食料や水の提供、気候調節等）も提供している。しかし未開発の田園地帯（Greenfield）などで都市開発が進み、不浸透性の舗装で覆われると、栄養分や水の循環が滞り、土壌の生態系の機能が損なわれると、長く懸念されてきた。

報告書では、土地のリサイクルにより、新規開発の必要が減少し、開発済みの土地の生態系の改善もできるため、欧州の土地資源の保全と、生態系の回復にも有効であるとしている。

◆ 欧州戦略投資基金は、循環型経済プロジェクトで工場跡地の汚染除去を支援

欧州戦略投資基金（EFSD）は、通常では融資を受けづらいプロジェクトを支援して民間投資を呼び込むため、15年からEU全域で3,150億ユーロ以上の規模の民間・公共投資支援を行う計画を立てている。従業員3千人以下の企業を対象に、施行1年弱で64事業を支援し、1,000億ユーロ以上の投資の呼び水となった。環境分野では、「GINKGO FUND」で、ベルギーとフランスの古い工場跡地の汚染除去が進められ、後継プロジェクトGINKGO IIでは、18年末までにEU域内7カ所の汚染除去と再開発を行う。これまで利用できなかった土地が投資を通じて、新たに仕事場や生活圏として生まれ変わっている。

【赤山英子】